

六本木の街のイメージと街路景観に関する研究

Study on the relationship between street landscape and the image of the city of Roppongi

○亀井一帆¹, 山本成子¹, 山中新太郎²

*Kazuho Kamei¹, Seiko Yamamoto¹, Shintaro Yamanaka²

1. 研究背景

戦後、東京の街ではスクラップ・アンド・ビルドが数多く行われ、街の景観の変化はとどまるところを知らない。その東京の街の多くは雑然としていて汚いと言われることも少なくない。しかし、世界的に東京の景観は認識され、また我々日本人も街ごとのイメージを持っている。では東京の街のイメージと景観にはどのような関係があるのだろうか。

2. 研究目的

本研究は、日々刻々と新しい建築が建設され日進月歩の成長を見せる東京の複雑な建築事情を背景に、近年多くの再開発が行われている六本木の街のイメージを明らかにし、街のイメージを形成している景観要素を街路景観から探ることを目的とした研究である。

3. 研究方法

本研究では写真を用いた SD 法のアンケート調査を行い人々の街のイメージと街路景観について調査する。またアンケート結果から回答者の性質と街のイメージの関係を探り、さらに六本木の街のイメージを形成している景観要素をアンケートの得票率を元に明らかにする。

4. アンケート調査

以下の順序でアンケート調査を行う。

i. アンケートを用いて人々がもつ六本木の街のイメージを SD 法を用いて調査する。用意した形容詞対は①魅力のある（魅力のない）②面白い（つまらない）③整然（雑然）④華やか（地味な）⑤明るい（暗い）⑥現代的（歴史的）⑦開放的（閉鎖的）⑧外国的（日本的）の 8 種類で 7 段階の尺度を用いた。

ii. i で回答してもらったイメージと合致する六本木の街路景観写真を選択してもらい、さらにそれを感じさせた物体あるいは景観を線で囲ってもらい（以下この線をフレームと称し、その名称を「F0101」のように示す。（Fig. 1.））。用意した写真は全 30 枚、内 20 枚を昼、10 枚を夜とした。また撮影箇所は 1~7 丁目からそれぞれ数箇所ずつピックアップした。



fig.1.フレーム名の見方

5. 調査結果

SD 法によって選ばれた街のイメージは③整然を除きこちらの用意した+のイメージをもつ形容詞（魅力のある等）になった。フレームごとの得票数では F2901（六本木ヒルズ・夜）が最も多く、F2501（WORLDSTAR CAFE・夜（飲食店・芋洗坂））が次点であった。

6. 回答者と街のイメージ

アンケート回答者の傾向と形容詞の回答の関係を分析した。性別で見ると男性に比べ女性の方が全ての得点がやや高かった。また年齢別に見ると年齢が若いほど全ての得点が高くなる傾向が見られ、この傾向は六本木への来訪回数にも同様の傾向が見られた。これらは得点の大小はあるものの、SD チャートで確認するとその線形は近似してる。以上から六本木の街のイメージは六本木に不慣れな人ほど高い得点を示す傾向にあると言える。

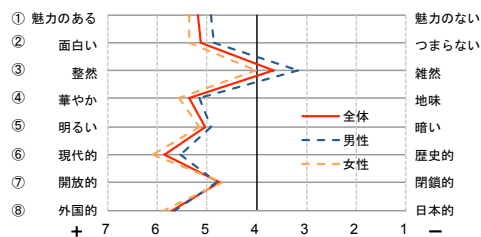


fig.3.全体及び性別の SD チャート

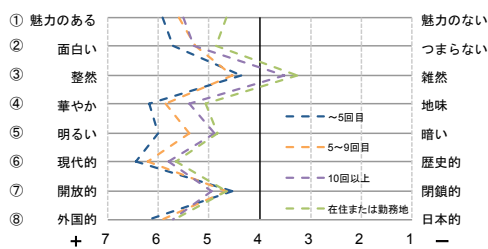


fig.4.六本木への来訪回数別の SD チャート

1 : 日大理工・学部・建築 2 : 日大理工・教員・建築

7. 街のイメージを形成する景観要素

形容詞①～⑧ごとにアンケートで得られた景観要素の得票率ランキングをつけた。ただし、③についてはアンケート結果から-の形容詞である雑然を用いることとし、他については+の形容詞を用いた。それぞれの形容詞ごとに得票率が高かったものを確認すると、fig. 5 のような結果になった。

形容詞	順位					
	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位	6 位
①魅力がある	F2901 (9)	F2501 (7)	F0201 (6)	F0202 (5)	F2403 (5)	F1202 (4)
②面白い	F2101 (15)	F1202 (5)	F2501 (5)	F1203 (4)	F1901 (4)	F2901 (4)
③雑然	F2101 (6)	F1103 (4)	F2105 (4)	F0701 (3)	F0701 (3)	F0902 (3)
④華やか	F2901 (11)	F2405 (8)	F2501 (7)	F2103 (6)	F1303 (5)	F2101 (4)
⑤明るい	F2101 (10)	F2404 (8)	F0201 (5)	F1202 (5)	F1203 (5)	F2501 (5)
⑥現代的	F2901 (27)	F2401 (11)	F1202 (5)	F1901 (5)	F2101 (5)	F1201 (4)
⑦開放的	F0201 (7)	F1203 (6)	F1902 (5)	F0103 (4)	F2501 (4)	F1202 (3)
⑧現代的	F2501 (13)	F1304 (7)	F2201 (7)	F1102 (6)	F2105 (5)	F0201 (4)

※() 内は得票数を示す 同順位の場合写真番号の小さいほうから記載

fig.5.形容詞ごとのフレームの得票率ランキング

各形容詞の上位は同様のフレームまたは写真であった。各形容詞の傾向は以下になる。

- A. 魅力や面白さに影響するものは六本木ヒルズや東京ミッドタウンなどの現代建築や、舗装され緑を取り入れた街路などの現代的な建築・街路。または電飾が多く施された店舗のファサードであった。
- B. 雑然性に影響するものは六本木交差点周辺の商店街の雑居ビルや人ごみであった。
- C. 華やかさに影響するものは夜の電飾が多く施されている物であった。
- D. 明るさに影響するものは夜の電飾が多く施されている物、昼の舗装された街路や六本木ヒルズのファサードであった。
- E. 現代的と感じさせるものは六本木ヒルズや東京ミッドタウンなどの巨大な建築やドン・キホーテであった。
- F. 開放的と感じさせるものはシークエンスの通った街路や、人だかりの出来た景観であった。
- G. 外国的と感じさせるものは英語で書かれた電飾看板を持つ店舗や外国の国旗、西洋建築様式を模倣した街灯や建築のファサードであった。

8. 総括と展望

6. の結果から六本木に不慣れな人ほど高い得点を示す傾向にあることが明らかになったが、これは他の街においても同様の結果が得られるのではないだろうか。また回答者の性質別に分けても似たようなSDチャートの線形を描いたが、これは一般的な六本木の街のイメージが確立している証拠である。

7. の結果から六本木の街のイメージを形成するものの多くは近年再開発されたものやきれいに舗装された街路などであった。その一方で戦前から六本木の象

徴であった六本木交差点周辺の商店街も多くの票を得ていることから戦前から街の中心であった六本木交差点は今も廃れることなく街の中心で在り続けている証拠であろう。

六本木は一般的な街のイメージが確立され、またそれを形成する景観が幾つかのものに集約されている事から、複雑な街の背景にも幾つかの際立った景観要素があることが判明した。日々変化する六本木の景観において、昔からある六本木交差点のように今後六本木ヒルズ等も街のイメージを形成する事物として残るとすれば、次々と生まれてくる新しい建築も六本木の新たな街のイメージとなるのであろう。



fig.6.得票率の高いフレームを有する写真

10. 参考文献

- [1] ケヴィン・リンチ「都市のイメージ」, 岩波書店, 1968年
- [2] 柴田清太郎六本木, 「麻布第一復興土地区画整理組合」, 1954年
- [3] 広田豊「六本木物語 栄光の時を刻む街」, TIS, 1989年